

# 障害福祉分野の人材確保戦略セミナー開催報告



2019年10月21日(月曜日)、仙台市産業振興事業団大会議室にて、「障害福祉分野の人材確保戦略セミナー」を開催しました。2019年2月に開催した「障害福祉分野の人材確保に向けた研修会」に続き、障害福祉分野の人材不足解消に向けた仙台市の取組みの一環です。

当日の様子をご報告いたしますので、今後の参考にさせていただければ幸いです。

## 障害福祉分野の人材確保戦略セミナーとは？

福祉分野の人材育成に関わる大学の先生や民間団体の方々から、様々な視点で人材確保のヒントについて伝えていただくセミナーです。

東北福祉大学福祉実習支援室長として学生の実習支援に取り組む菅原里江氏、一般社団法人FACE to FUKUSHI(大阪)で次世代の人材採用の支援に取り組む池谷徹氏、ヒトベース株式会社で企業の採用・育成アドバイザーとして活動する渡辺徹氏、社会福祉法人ゆうゆう(北海道)で先進的な採用活動に取り組む近藤綾香氏の4名を講師に迎え、最近の学生の傾向や、福祉人材確保の現状、人材採用のポイントなどについて、幅広くお話しいただきました。講演後は講師との交流会の時間を設け、参加者とともに人材確保に関する意見交換や情報共有を行いました。



菅原里江氏



池谷徹氏



渡辺徹氏



近藤綾香氏

## 参加者

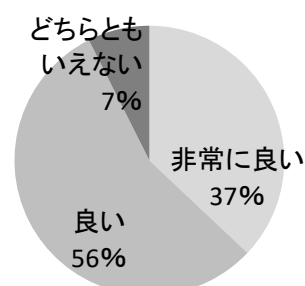
障害福祉事業所の管理職や採用担当者等 45名

## 当日の内容(一部)

### (1) 障害福祉分野の人材確保に向けて(実習支援の現場から感じる学生のニーズ) 講師：菅原 里江 氏

- 福祉系の大学教育として、出口を意識した教育に力を入れている。インプット中心の福祉知識教育から、実践や対話による柔軟な発想の学びへ。
- 本学では障害児・者福祉を実習先に選ぶ学生の割合は20%に満たない。最近の学生は、実習先として直接的な対人ケアのない、社会福祉協議会などを希望する傾向にある。

## 【アンケート結果】 本イベント全体の感想



○一方、本来の希望でなくても障害者福祉施設に実習にいった学生の感想として、「知らなかった世界に足を踏み入れ毎日が驚きと発見ばかりで充実していた」というものもある。実際に障害者と関わることでイメージが良い方向に大きく変化する。事業所の方々と協力し、障害のある方と接する機会を増やしていくことが重要と考えている。



## (2) 若手福祉人材の採用動向と、事業所の魅力を伝えるポイント 講師：池谷 徹 氏

○ナビに載せれば、フェアに出れば採用できる時代は終わり、どう出逢い、どう採用に繋げるかが採用の肝になる。

○職場を選ぶ際に重視したポイントとして、ほとんどの学生が「職場の雰囲気」を重視している。

○一方、「若者」「学生」と一括りにせず、何に魅力を感じるかは十人十色ということ意識する。事業所の魅力をどんな相手に伝えたいか、その相手は何を求めているかということをよく知ることが大切。

○事業所の魅力を伝えるためには、発信対象（ペルソナ）を設定し、若手職員（ロールモデル）から発信することが有効。学生と年齢の近い若手職員から伝えることで、法人との距離感が近くなる。

## (3) 福祉分野の採用コンサルティングの取組みと、事例から伝える「採用できる法人になるヒント」

講師：渡辺 徹 氏

○法人は求職者から「選ばれる立場」にあることを理解する。

○若手が感じる「良い職場」のトップは「職場の人間関係が良い」こと。仕事・環境に「ハマれている」と魅力ある職場となる。

○採用に成功した法人は、対象を広げる、積極的な情報発信、思いを伝えている、という点が共通している

○採用は入口にすぎず、仕事を続けるための環境を整えることも大切。常に業務の見直しを行い、試していくことが重要となる。

## (4) 社会福祉法人ゆうゆう（北海道）の人材確保の事例紹介 講師：近藤 綾香 氏

○採用活動を行うにあたって、法人全体で取り組むという意識で行っている。全員で良い人材を確保するという風土。若手プロジェクトチームを作り、学生と同世代の意見を反映させている。

○Web などによる事業所の情報発信ツールには、あえてプロの写真家が撮影した写真を使用し、職場の魅力が伝わりやすい工夫をしている。

○職場の空気感は、ブースや見学に来た学生に必ず伝わる。

○選考期間中でも面談、若手職員とのお食事会など選考に反映しない機会を設け、内定後は内定者同士の交流の機会や内定式などを行っている（入職までの学生の不安解消）。



### 開催を終えて

参加者のアンケートでは、「共感とたくさんの学びがあった」「個別に連絡をさせて頂き連携を取って行きたい」などのご意見がありました。また、「実際に学生さんや求職者と交流できる機会がほしい」との声もありました。昨年度、本市では若手職員と学生の交流会「ココロン☆ワーク スペシャル」を開催しています。引き続き、学生や求職者と交流する機会を作る取組みを行っていきたいと思います。

最後に、開催にあたりご協力いただきました講師の皆様、お話を伺った学校や障害福祉事業所の皆様にご心より感謝申し上げます。今後ともご協力の程どうぞ宜しくお願いいたします。

<作成> 仙台市障害企画課 <電話> 022-214-8163  
<FAX> 022-223-3573 <メール> fuk005330@city.sendai.jp